

# 令和5年度 大阪府教育センター 研究フォーラム 実施要項

スローガン **こども輝く大阪 教育の未来**

## 1 日時 令和5年12月25日（月）

午前の分科会	午後の分科会
9:30～12:30（受付9:00～）	14:00～17:00（受付13:30～）

## 2 会場 大阪府教育センター

（大阪市住吉区苅田4丁目13番23号 電話 06-6692-1882）

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m  
JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m  
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

## 3 目的

大阪府教育センターでは、府内の学校園や先生方の課題解決に向けた調査・研究を行っています。当研究フォーラムを開催し、調査・研究から得た知見等を教職員・府民等に発信することで、府内の学校教育活動の発展に資することを目的としています。

## 4 申込み

- 参加するには申込み手続きが必要となります。申込み手続きは、次のWebサイトから行ってください。  
[https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum\\_overview.html](https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html)
- 午前と午後の分科会両方に参加することも可能です。その際には、午前から一つ、午後から一つの分科会を申し込んでください。
- 申込み期間は、**令和5年11月6日（月）～12月4日（月）**です。
- 各分科会とも先着順で受け付けます。申込みをされた方には、後日、参加の可否等を電子メールで送付します。

## 5 参加に係る配慮事項

- 配慮を希望する方は、「受講に係る配慮事項申請書」に必要事項を入力の上、電子メールにて送付をお願いします。教職員の方は、管理職を通じて送付ください。
- 「受講に係る配慮事項申請書」は、次よりダウンロードできます。  
<https://www.osaka-c.ed.jp/category/training/r05/ryuuiten.html>  
ファイル名：R5研究フォーラム\_第〇分科会配慮事項申請書.docx  
送付先アドレス：[kyoiku-center-kousui@gbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kyoiku-center-kousui@gbox.pref.osaka.lg.jp)

※ 第7分科会には事前動画があります。この動画は、YouTubeの字幕に対応しています。また、動画のスライド等はテキストファイル化し、随時、掲載します。

## 6 分科会一覧（敬称略）

第1分科会	12月25日(月) 14:00~17:00
<h3>ハイフレックス型校内研修の在り方に関する研究</h3>	
<p>大阪府教育センターは、文部科学省の「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」を受託し、校内研修の活性化支援、ICTによる研修の高度化、動画コンテンツの作成及びその普及に取り組んでいます。</p> <p>ICTによる研修の高度化として、遠隔地の研究授業や研究協議に、双方向、リアルタイムで参加できる研修室FTR（Future Training Room）を所内に準備し、モデル校を指定して、新たな型の校内研修（ハイフレックス型校内研修）の研究を進めています。</p> <p>この分科会では、FTRの機能の紹介や、ハイフレックス型校内研修の報告を行うとともに、府内4つの小・中・高等学校の校内研修をもとに作成した動画のコンテンツ化、研修用VRコンテンツの試み、メタバース空間の教育への応用などを紹介します。また、次世代の教員研修の在り方について、学識経験者よりご講演をいただきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"><li>●基調説明</li><li>●説明・実演   Future Training Roomの機能                   大阪府教育センター 指導主事等</li><li>●実践発表    ハイフレックス型校内研修を実践して                   大阪府教育センター 指導主事等</li><li>●講演         校内研修のハイフレックス的展開の可能性                   木原 俊行（大阪教育大学 教授）                   尾崎 拓郎（大阪教育大学 准教授）</li></ul>	
第2分科会	12月25日(月) 14:00~17:00
<h3>動きだす、同僚とつながる教員の育成に向けて ～OSAKA 教職スタンダードを活用して～</h3>	
<p>教員には、「これからの時代に対応できる資質・能力」を児童・生徒に育むための力量を高めるとともに、「チーム学校」の理念のもと、課題解決のために組織的・協働的に取り組む姿勢が求められています。このような中、大阪府では、教員一人ひとりの資質・能力の向上に向けて、「OSAKA 教職スタンダード」等を策定し、キャリアステージに応じた目標設定等に活用できるようにしています。本分科会では、この「OSAKA 教職スタンダード」を活用したワークショップ（校内研修）による人材育成の実践例をお伝えするとともに、参加者間の交流を通じて、教員一人ひとりの資質・能力向上に向けた方策についてみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"><li>●実践発表    OSAKA 教職スタンダードを活用したワークショップ実践校より                   富田林市立彼方小学校                   泉南市立西信達中学校                   府立東高等学校                   府立泉北高等支援学校</li><li>●人材育成に係る意見交流会</li><li>●講評         田中 満公子（大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科 特任教授）</li></ul>	

## 人権教育にかかる効果的な教職員研修の在り方 ～人権課題を自分事として捉えるために～

各学校園において人権教育を進める際には、まずは教職員自身が人権教育や個別の人権課題を深く理解し、自分事として捉えることが必要になります。そのため、各学校園や市町村教育委員会においても、様々工夫して教職員研修が実施されています。では、どうすればより効果的なものにできるのか、また研修を実施する側としてどのような点に留意すべきなのか。本分科会では、講師の栗本さんより、研修で活用できる様々な教材やポイントを提示していただきながら、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。主な対象は、管理職、人権担当者、指導主事等を想定しておりますが、人権教育に関心のある方であれば、どなたでも是非ご参加ください。

- 講演・ワークショップ 個人の心掛けから社会の構造へ  
－人権教育を担う教職員に求められるもの－  
栗本 敦子 (Facilitator's LABO <えふらぼ>)

## 子どもたち一人ひとりの学びの充実に向けて ～これからの支援教育の方向性～

障がいのある子どもの障がいの状態や発達の段階を把握し、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うための参考資料として、「みつめよう一人ひとりを」を作成しています。この度、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」（令和3年6月文部科学省）等を受け、この「みつめよう一人ひとりを」の増補改訂に取り組むことになりました。また、講演「子供たち一人ひとりの学びの充実に向けて～これからの特別支援教育の方向性～」を通して、今後の支援教育の方向性について、参加者のみなさんと一緒に学んでいきたいと思っております。

- 成果報告 「みつめよう一人ひとりを」増補改訂について  
大阪府教育センター 指導主事等
- 講演 子供たち一人ひとりの学びの充実に向けて  
～これからの特別支援教育の方向性～  
加藤 宏昭 (文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官)

## 小中学校における不登校支援の在り方 ～子どもの多様な学びにつながる適切な不登校支援を探る～

大阪府の不登校児童・生徒数は全国同様、年々増加傾向にあります。

本分科会では、ICTを活用した取組み、支援の核となる居場所づくりについての実践発表、不登校支援に携わる認定NPO法人による講演、パネルディスカッションを通して、これからの不登校支援について、学校のヒントとなる取組みをお伝えします。

- 実践発表 多様な教育機会や居場所の確保について  
市町村教育支援センター、フリースクール、小中学校より
- 講演 困難な状況にある子どもへの支援  
～多様な支援のひとつとしてのプログラミング学習支援～  
平井 大輝 (NPO法人 CLACK 理事長) 他
- パネルディスカッション 子どもの多様な学びにつなげる適切な不登校支援について  
ファシリテーター 新井 肇 (関西外国語大学 教授)  
(「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」副座長)

## 高等学校における不登校生徒支援 ～生徒のこころを捉える～

大阪府の高等学校における令和4年度の不登校生徒数が、前年度より22%も増加しました。1,000人当たりの不登校生徒数は全国で最も多く、不登校対策は依然として喫緊の課題といえます。令和4年12月には「生徒指導提要」が改訂され、不登校生徒への支援の方向性や指針が改めて示されました。中でも多職種によるネットワークの構築の重要性について触れられ、今後の不登校生徒支援はさらにチームでの支援が求められているところです。そこで、本分科会では心理・福祉の専門家とともに、学校における不登校生徒支援の実際や、学校と教育支援センターとの連携の在り方等について議論します。また、精神科医をお迎えして、不登校の背景にもあげられる神経症的傾向や精神病理等、高校生年齢におけるこころの在り様についてご講演いただきます。

- 報告 調査研究の中間報告  
大阪府教育センター 指導主事等
- パネルディスカッション 不登校生徒支援のためのチーム学校の在り方  
河井 美砂 (臨床心理士)  
森本 智美 (精神保健福祉士)  
金 松美 (高等学校教育支援センター職員)
- 講演 高校生年齢の病理的特徴について  
山下 仰 (精神科医)

## 「資質・能力の育成」に資する指導と評価の在り方 ～2ラインのアプローチによる人材育成を軸にして～

現在、学校では、経験年数の少ない教員の割合が増し、教員の人材育成が急務となっています。そこで、今年度、第7分科会では調査・研究として、2ライン（直接的・間接的）のアプローチを軸にした教員の人材育成をすすめています。今回は、本分科会の調査・研究等に関する小・中学校における実践発表・講演を通して、「子どもが育つために必要なこと」「先生が育つために必要なこと」について考えます。事前動画を視聴して、当日ご参加ください。

- 実践発表（※実践発表は、全て、事前動画（オンデマンド配信）にて行います。）
  - 【国語の授業づくりモデル小学校】 泉佐野市立第二小学校
  - 【確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校】 羽曳野市立河原城中学校
  - 【スマートスクール実現モデル校】 豊中市立第十六中学校
  - 【学校図書館を充実・活用するためのモデル校】 岸和田市立常盤小学校
  - 【小・中学校指導力向上推進リーダー養成長期研修 国語】 和泉市立光明台北小学校
  - 【小・中学校指導力向上推進リーダー養成長期研修 国語】 和泉市立南松尾はつが野学園（後期課程）
  - 【小・中学校指導力向上推進リーダー養成長期研修 算数】 柏原市立柏原小学校
  - 【小・中学校指導力向上推進リーダー養成長期研修 外国語】 高石市立清高小学校
- 講演 自立したまなびてを育てる教育とは  
山下 敦子（神戸常盤大学 教授）
- 協議 育とうよ、先生も！  
～子どもが育つために必要なこととは～  
～先生が育つために必要なこととは～

詳しくはこちら



## 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの推進

授業において大切なことは、生徒が主体的に学習に取り組み、各教科の見方・考え方を獲得することです。そのために、教員がどのような発問やしかけをすれば良いのかを、ワールドカフェ形式のワークショップを通じて、参加者の方々に実際に体験いただきます。また、大阪教育大学 八田 幸恵 准教授より、『「主体性」とは何か』や『「主体性」を育むための授業と評価』について、ご講演いただきます。

- ワークショップ 「主体性」を引き出す授業づくりの実践  
大阪府教育センター 指導主事等
- 講演 「主体性」を育むための授業と評価  
八田 幸恵（大阪教育大学 准教授）